

## 国際センター

### 2023 年度 国際交流活動報告

#### 国際センター 早野曜子

2016 年に発足した国際化センター(現 国際センター)は、矢野恭弘により交流の基盤を固めてきた。2020 年から 2022 年度まで、新型コロナウイルス感染症により、渡航を伴う国際交流を中断せざるを得ない状況となった。

また 2022 年 2 月にはロシアのウクライナ侵攻が始まり、フィンランド・ポーランドなど隣国への渡航も心配された。こうした情勢の中、4 年ぶりの国際交流再開にあたり、2023 年 2 月には交流先のイギリス・フィンランド・デンマークを早野が訪問し、各交流先の視察や担当者と直接会い再開に向けた相談を行った。

2023 年度に実施された国際交流プログラム(留学2・研修3・来校交流6・TA2)を時系列で報告する。

#### 1. 交流先訪問

期間 2023 年 2 月 1 日(水)ー12 日(日)

4 年ぶりの交流再開に向け、著者は英国 Winchester College、フィンランド Vimpeli, Alajärvi 高校、デンマーク Allerød 高校、Alme Skole, Gymnastikhøjskolen I Ollerup を訪問した。

イギリスのウィンチェスター高校、デンマークのアレロッド高校では担当者が交代していたため、新規担当者と直接会い、相談できたことの成果は大きい。フィンランドはヴィンペリ市長、教育庁の担当者、ヴィンペリ高校とアラヤルヴィ高校校長の Marko Timo 先生、日本語担当の Seppälä Emmi 先生と交流再開に向け相談した。

#### 2. ニューヨーク短期留学

期間 2023 年 3 月 26 日(日)ー4 月 9 日(日)

参加者 女子部高等科 2 年 庄生暁

高等科 3 年 荒川望乃

男子部高等科 3 年 藪内壮太 栗田稜

引率 下園 晴歌(男子部)

#### 活動内容

3 月 26 日 11 時 15 分羽田発 NY JFK12:00 着

3 月 27・28 日 マスターズスクールへ登校

3 月 29 日 ニューヨーク Bronx Collaborative High School 訪問  
日本語クラスの生徒と交流

3 月 30・31 日 マスターズスクールへ登校

4 月 3 日 学校集合後、ニューヨークメトロポリタン美術館見学

4 月 4 日 ブロンクスの生徒と一緒にクルージング

4 月 5 日 マスターズスクール授業参加(宗教地理学)

4 月 6・7 日 自由行動

4 月 8 日 帰国(9 日到着)



2-1 理科授業の様子



2-2 先生とディスカッション



#### 2-3 ブロンクス高校での交流

参加生徒の日報から

「今日がサムの家にいる最後の夜なので、たくさん話しました。学園の話や戦争の歴史などを話しました。「日本人はアメリカ人のことを嫌っているでしょ」と言われたので、「そんなことはないよ、確かに一部の人は嫌っているかもしれないけど、基地問題だったり、アメリカ人に直接的な嫌悪感はないと思う」と言う話をしたのですが、印象的だったのは、「家族に戦争経験者はいる？」と聞かれたので、「曾祖父が海軍で亡くなった」と伝えたら「アメリカ人は本当に酷いことをした。申し訳ない。私の祖父は戦争に関わりましたが、

101 歳で今も生きています」と言ってきたので「お互い様ですよ」と言いました。自分がもしそんな話をした時に自分には関係ない話かもしれないが素直に謝れるか、自分はものすごく見習いたい部分だなと感じました。最後の日は話がかなり白熱しました。ホームステイならではの体験が出来たと思います。」「(マスターズで)最後に受けた授業は、地理と宗教学みたいなものを混合させたようなもので、生徒が一つの地域を選んでその地域の背景などをプレゼンテーションしていく形でした。プレゼンテーション後の議論も凄いいハイレベルで日本にあまりない授業だなと感じました。」

この留学はニューヨークにある私立のマスターズスクール(寮のある進学校)とブロンクスにある州立の公立校という異なる教育環境にいる2校の生徒と交流する機会がある。留学した 4 名はそれぞれホームステイを通し、マスターズスクールに通う家庭の様子を知ることができ、またブロンクスの学校では日本語クラスを取っている生徒との交流を通し、親しくなることができた。今後の課題として、帰国翌日から新年度が始まる為、参加生徒の負担が大きいく、ニューヨーク州の法律により、現地で予防接種を受けるなど、事前の説明と異なる状況も生じ、生徒および保護者には、ご負担を掛けたことが反省である。2024 年はマスターズ・スクールの受け入れを実施予定。

### 3. フィンランド留学生受け入れ

期間:2023 年 5 月 7 日(日)―17 日(水)

留学生 Lia Järvelä, ホストファミリー

高3松井(5/7―12) 高1中尾(5/13―17)

Helmiina Kuoppa-aho ホストファミリー(高2渡辺)

Kerttu Leppänen ホストファミリー(高3荒川)

Saimi Juudin ホストファミリー(高3両角)

活動内容

女子部高2のクラスで生活した。留学生の張り出し授業 日本語9時間 ペンケース作り2時間 お習字2時間 農芸体験 1 時間 ほかに英会話・体操・数学・生物・地学などの授業に参加した。

また保護者のご好意により、茶道体験など日本文化に触れる体験もできたことは感謝である。



3-1 プレゼンテーション



3-2 茶道体験



3-3 労作に参加



3-4 ホストファミリーと

来日した 4 名中 3 名が夏にフィンランドへ留学した生徒のホストファミリーとして迎えてくれた。双方向での交流ができたことは生徒だけでなく、ご家庭にも良い交流の機会となった。

### 4. Bronx Collaborative High School 来校受け入れ

期間 2023 年 5 月 19 日(金)―21 日(日)

留学生 生徒 12 名(10<sup>th</sup>―12<sup>th</sup> Grade) 引率教師3名(Emi Yamasaki, Deborah Katz, Eric Maillet) 合計 15 名

活動内容

5 月 19 日(金)浅草までマイクロバスで迎えに行く。交通事情で 6 時に寮に到着。

5 月 20 日(土)有志生徒と交流(主に高等科2・3年生)

5 月 21 日(日)早朝、寮から車で品川まで送迎。

春休みにニューヨーク留学した 4 名を中心に、男子・女子それぞれ清風寮・東天寮に宿泊体験。引率教師 3 名も分かれて宿泊した。短時間だったが、寮での時間を共有できたことは寮生にとり貴重な交流の機会となった。



4-1 朝の礼拝で自己紹介



4-2 寮での自己紹介



4-3 屋食での様子



4-4 日曜日朝の出発

### 5. 英語 Teaching Assistant

期間 4 月 10 日(月)―7 月 23 日(日)



5-1

Robyn Lustman (フェルトナムレイディーズ カレッジ)

E. Alex Haslam-Jones (ウインチェスターカレッジ)

4月9日に来日し、光風寮・しのめ寮に滞在。初等部3年から学部までの授業に TA として参加。また解散後の ESS も実施した。イギリスから来た TA だが、それぞれロシアやポーランド、ケニアなどにルーツを持ち、ヨーロッパの歴史が家族史にも繋がっていることがわかった。残念ながら Alex は体調不良の為、6月初めに帰国した。ロビンは了解を得た上で、学部のゼミでファミリーヒストリーのプレゼンや、幼児生活団へ絵本の読み聞かせも行った。



5-2 解散後 ESS の様子



5-3 学部の授業に参加



5-4 絵本の読み聞かせ



5-5 ゼミでの様子

## 6. 夏休みの交流プログラム

### ◆カンボジア研修

期間 2023 年 7 月 24 日(月)―8 月 3 日(木)

参加者 男子部高等科1年 浅野唯吾 石田礼歩

島田由一郎、菅原ハルネ理峰

女子部高等科1年 青山未依 内山遥陽 江渡凛

海渡華映 鈴木瞳子 永田瑞歩 難波明由 力石望愛

引率教師:橘隼人(男子部) 中川李梨子(女子部)

主な内容

7月25日 戦争博物館の見学(地雷・戦車・爆弾見学・戦争平和を考える)

・APOPO センター訪問(地雷除去ラットを知る)

7月26日 世界遺産アンコールワット遺跡観光、アンコールワット・タプローム・アンコールトムの訪問・見学

フランス支援職業訓練施設へ訪問

7月27日 キリングフィールド・トゥールズレン博物館へ訪問  
見学 政府認定・FLO 福祉施設へ訪問…子どもたちとの交流(施設見学・夕食交流会)

7月29日カンボット州地方小学校へ訪問、ボランティア

7月31日 プノンペン大学で日本語交流

8月1日 プノンペン高校訪問交流



6-1 中学校での交流



6-2 地雷について



6-3 アンコールワット



6-4 小学校への訪問

生徒の感想

「この研修で私らしさを取り戻してきたような気がします。ポジティブな明るい私。自分のためにはどこか全力になれるというか、現地の小中学校、高校、大学で出逢えた方のお顔やホームステイ先の家族や福祉施設の子どものことを思い浮かべた時の方が頑張ろうと思えたのです」「研修でカンボジアのリアルを体験して、他の国のリアルも体験したいと思うようになりました。FLO や高校でのプレゼン発表を行って、もっと英語の勉強を頑張りたいと思いました。自分の伝えたいことを正確に伝え、コミュニケーションをスムーズに進めることができたら今の何倍も楽しいと思います。今までは英語が喋れるようになりたいというありきたりな目標で英語の勉強をしていましたが、カンボジア研修を通して、より明確な目標を立てることができたと思います。」

カンボジア研修はコロナ禍で中断し4年ぶりとなった。戦争博物館、キリングフィールドへの訪問で平和を考える機会となったこと、ホームステイの実現、地元中学校での授業実践など成果があった。一方でプログラム実施に際し、最初の段階で十分な検討がなされなかったことは大きな反省である。平和教育・アジアへの関心交流を進める上でも今後、より慎重に準備を進めることが必要である。

### ◆ネパールワークキャンプ

詳細は「最高学部 ネパールワークキャンプ(事前調査活動)」参照。

### ◆The 17<sup>th</sup> World Gymnaestrada(世界体操祭)学部生参加

詳細は「最高学部 世界体操祭(World Gymnaestrada)参加報告」参照。

### ◆フィンランド短期留学

期間 2023 年 8 月 17 日(木)― 31 日(木)



参加者 女子部高等科2年 喜屋武暖乃

高等科3年 両角つづり

男子部高等科3年 小山遥志 野川文太

主な内容

8月 21 日ー24 日 アラヤルヴィ高校授業参加(コマ数)

英語(6)数学(6)美術(4)フィンランド語(6)音楽(2)物理(4)  
スポーツ(2)

8 月 25 日(金)ヴィンペリ高校訪問

8 月 28 日(月)プレゼンテーション 2 回



21-24. 授業の様子

#### ◆デンマーク研修旅行

期間 2023 年 8 月 17 日(木)ー31 日(木)

参加者 女子部高等科2年 小泉葉子 谷崎加納子

平田菜都子 福島こころ 金丸実由

女子部高等科3年 片山いくみ 岡田花蓮 八谷早記

富山智咲

男子部高等科2年 酒井隆生 中村司

高等科3年 進藤瑛生

引率 早野曜子(国際センター) 合計 13 名

主な活動内容

8 月 17 日ー26 日 オレロップ体育アカデミーに滞在  
オレロップ幼稚園見学・エフトスコレ見学・小規模有機農  
場見学・自然エネルギー利用施設見学・アンデルセン博物  
館・フュン島民家園・エグスコウ城見学・オレロップ授業体  
験・スベンボー貧民収容所見学

8 月 27 日 コペンハーゲン移動 自由行動(ホテル泊)

8 月 28 日ー30 日 アレロッド高校と交流(ホームステイ)



6-5 パルクール体験



6-6 農場見学



6-7 風力発電見学



6-9 アレロッド高校生と交流



6-8 体操 TA20 周年



6-10 プレゼンの様子

#### 7. デンマーク体操 TA

期間 8 月 31 日ー12 月 23 日



7-1 Laura Gordon Lemvig (20)

Oliver Nørris Olsen (22)

主な活動

・9 月一体操会(10 月 7 日)

体操会に向け、男子部高等科体操(オリバー)、女子部高  
2・3 年クラブ体操(ラウラ)、最高学部全身体操(オリバー&  
ラウラ)の演技指導

・体操会後ー12 月 23 日

幼児生活団体操(週 2 回)初等部授業(各学年 1 回)

男子部女子部の授業 5 時間/週

解散後 転回部指導(オリバー)ダンス部指導(ラウラ)

11 月 23 日 日本体操祭参加(学部 1 年と演技発表)

その他、全国友の会での体操ワークショップ

11 月 4 日(土)浜松 11 月 5 日(日)静岡

11 月 18 日(土)札幌 12 月 9 日(土)岡山

#### 8. Idraetshoejskolen BOSEI 来校交流

期間 2023 年 11 月 9 日(木)

来校者 BOSEI ホイスコーレ 学生 36 名 引率 2 名

主な内容

学部 2 年生と一緒に体操交流

学部 3,4 年ヒューマン・データゼミの学生と交流

キャンパスツアーの後、グループに分かれ交流



8-1 学部2年と交流



8-2 学部3.4年と交流

## 9. Alme Skole 来校交流

期日 2023 年 11 月 14 日(火)

来校者 Alme Skole 9 年生(中3)16 名 引率3名

主な活動 女子部・男子部中等科3年と半日交流



9-1 折り紙体験



9-2 交流終了後に写真

## 10. Ranum EfterskoleCollege 来校交流

期日 2024 年 1 月 23 日(火)

来校者 Ranum Efterskole 生徒 26 名 教師 3 名

主な内容

Ranum Efterskole とは2016年から交流があり、今回4年ぶりに交流再開となった。当初は男女高等科1年が交流する予定だったが、インフルエンザにより学級閉鎖となり、急遽女子部高等科3年が英語の授業の一環として交流することとなった。昼食後までの短い交流であったが、楽しいひとときを過ごしてもらうことができた。

## 11. Cheltenham Ladies' College 来校交流

日時 2024 年 3 月 25 日(月)

来校者 チェルトナム・レイディーズ・カレッジ

生徒 21 名 教師 3 名

主な内容:ゲーム(なんでもバスケット)校内案内・日本の文化体験(お習字・だるま落としなど)・文化クイズ・お菓子の食べ比べ)春休み中だったが、高等科1・2年有志15名が参加。女子部食堂を会場にアットホームな交流ができた。CLC には 2024 年 6 月に2名が短期留学する予定。こうした学校間交流が継続することを願っている。



11-1 アイスブレイク



11-2 日本の文化体験(折り紙)



11-3 クイズ大会 (CLC 側)



11-4 参加した生徒たち

## 12. その他 長期留学ほか

・オレロップ体育アカデミー留学(2023 年 8 月-)

学部3年 大串千里・高田和美・増本圭介

・ポーランドボメラニアン大学

学部4年内藤悠太 Erasmus+の奨学金を受け、2023 年 10 月-2024 年 2 月まで留学し、30 単位を修得し帰国。

Erasmus+ 教員交換プログラムにより 2023 年 7 月に Wladyslaw Miciński 先生が来校、10 月には学部教員咲花昭嗣がボメラニアン大学に滞在し、講義を行なった。

## 今後の課題

感染症が落ち着き、以前と同様、対面交流を再開した。

来校型交流は宿泊滞在も含め全 6 プログラム実施した。フィンランド留学生のように、滞在が1週間以上の場合、通常授業への参加などにより留学した生徒も自由学園の体験がそれなりにできるが、1 日交流の場合、目的を何としてどのように交流するのが良いか、年齢に応じて対応を考える必要がある。イギリス CLC との交流では、お互いの文化の相違点・共通点をクイズ形式で学んだ。お習字・折り紙などの日本文化体験だけでなく、事前学習も含め、短時間でも交流相手の国や文化に触れる内容が課題である。

## 国際センター今後の方向性

2016 年に発足した国際化センターは「自由学園を世界へ、世界の課題をキャンパスへ」をモットーに各部での国際交流プログラムを推進してきた。コロナ禍で一時中断したが、その間もオレロップ体育アカデミーへの留学は継続し、またオンラインでの交流など新たな方法も始めた。

各学校との交流も軌道に乗り出したことから 2023 年度から「国際センター」として新たな一歩を踏み出している。

ユネスコが提唱する「人の心から争いが生まれる。人の心に平和のとりでを築くこと」が今こそ必要な時である。

“To Be a Global Citizen”として、多文化理解・平和への貢献・地球環境へ国を超えた取り組みなど、次世代が抱える課題解決に向け、よく見る(視野を広げ)よく聞く(異なる考え・文化を知る)よくする(考えて行動できる)人を育てていくことが必要である。